

次の世代にとって魅力のある 経営体系の確立を目指して

サラダ菜経営 大橋町 草場 大和 さん (37歳)

就農と規模拡大

父親の勧めで福岡県農業大学校に入学した草場大和さん。在学中の農家留学で、先進的な農家の生産現場に触れたことにより、意思を固め、20歳で就農しました。

就農後は、研修会や先輩農家からのアドバイスを受けながら技術習得に励み、両親が始めたサラダ菜の経営規模を徐々に拡大しました。常時雇用のほか、パート従業員、外国人実習生等によって労働力を確保し、140アールのハウスでサラダ菜を生産しています。

地域農業の若きリーダーとして

久留米市はサラダ菜の土耕栽培で全国一の産地規模を誇り、大和さんは現在、JAくるめサラダ菜部会の部会長です。久留米のサラダ菜は、土耕ならではの棚持ちの良さや品質の高さから、全国の流通関係者から高い評価を受けています。しかし、その現状に満足することなく、部会の若手メンバーを中心に、消費者との直接交流による販路拡大の取組を検討するなど、産地として二層の成長を目指しています。

次の世代にとって魅力ある農業経営を

今後、250アールを目標に、生産規模を拡大するため、更なる人材の確保や、他品目の導入を視野に入れています。

「息子にとって魅力のある経営体系を確立して、バトンを渡すことが夢だ。」と語る大和さん。座右の銘である、「現状維持は退歩なり」を胸に、攻めの農業を展開していきます。

